

読んでみたい

論語・日本語

その8

平成26年9月から市内小中学校で論語・日本語を学ぶ授業が始まりました。本紙でも論語・日本語をシリーズで紹介します。

子曰^{しい}わく、「義^ぎを見て為^せざるは、勇^{ゆう}なきなり。」と。

先生は言われた、「正しいことだとわかつていながら、何もしないのは、勇気がないことだ。」と。

子曰^{しい}わく、「其^それ恕^{じよ}か。己^{おのれ}の欲^{ほつ}せざる所^{ところ}を、ひと ほどこに人に施^なすこと勿^なかれ。」と

（お弟子さんから「生涯行ふべきことを一言で言つと何ですかと。」問われて）先生は言われた、「それは、相手を思う心だ。自分がされていやなことは、人にやらないことだ。」と。

これは、小川小の先生方の好きな言葉の上位二つです。

本校では、朝の自習、授業や家庭学習、また校内の掲示で論語・日本語の教材を活用しています。その中で、「夏休み親子で論語にチャレンジ」を実施したときの保護者の感想の一部を紹介します。

「毎回読むうちに昔を思い出して読むのが楽しくなっていた」「子どもの方が覚えるのがとても早く、すごいなと思った」「繰り返し言っていると自然に心に入ってきた」「覚えるとその意味を知りたくなり、子どもと一緒に学んだ」「この言葉を大切にしようと思った」などです。

今も昔も、日本を知る外国人を中心に、よく日本のよさが話題にされています。福沢諭吉はその著書に、「もし論語がなかったら日本は今のようない国にはなっていないかつたであろう」と書いています。論語は年齢に応じて意味合いがまた変わってくるとも言われています。考えていたことが、より明確に素敵な言葉で表されているものに出会ったとき、心に清々しい風が渡り、生きる心の支えになる。そんな論語に皆さんも触れてみませんか。

※市教委主催で、1月に第1回小中学生「論語カルタ大会」が行われます。将来を担う子ども達のこれからの成長がとても楽しみです。

小川小学校 校長 福本憲穂